

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3148029号
(U3148029)

(45) 発行日 平成21年1月29日 (2009. 1. 29)

(24) 登録日 平成21年1月7日 (2009. 1. 7)

(51) Int.Cl.

A 4 7 L 13/17 (2006.01)

F 1

A 4 7 L 13/17

Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 実願2008-7953 (U2008-7953)
 (22) 出願日 平成20年11月13日 (2008. 11. 13)
 (31) 優先権主張番号 097207749
 (32) 優先日 平成20年5月5日 (2008. 5. 5)
 (33) 優先権主張国 台湾 (TW)

(73) 実用新案権者 508337581
 林佳靜
 台湾台北市復興南路一段 1 3 7 號 1 4 樓之
 3
 (74) 代理人 100082304
 弁理士 竹本 松司
 (74) 代理人 100088351
 弁理士 杉山 秀雄
 (74) 代理人 100093425
 弁理士 湯田 浩一
 (74) 代理人 100102495
 弁理士 魚住 高博
 (74) 代理人 100112302
 弁理士 手島 直彦

最終頁に続く

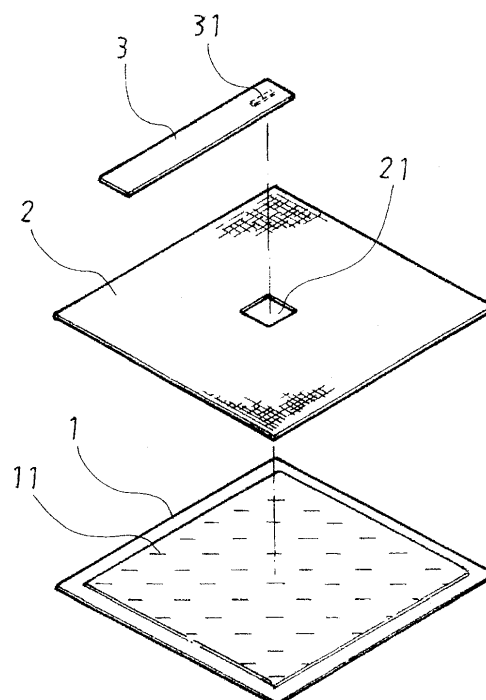
(54) 【考案の名称】 拭取り層を備えた液体収容袋

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 拭取り用液体が乾燥してしまうことがなく、各種拭き掃除や手入れ等の使用時に拭取り用液体を即時に拭取り層に浸み込ませることができて便利に使用することができる拭取り層を備えた液体収容袋を提供する。

【解決手段】 拭取り用液体が収容された袋体 1 と、前記拭取り用液体を浸み込ませることが可能な材質よりなり、中央部分に開孔 2 1 が設けられた拭取り層 2 と、帯状をなした片体 3 とを有する。袋体 1 の一面に拭取り層 2 が結合され、拭取り層 2 の上面に片体 3 が配置されると共に、開孔 2 1 を通じて片体 3 の一端が袋体 1 に剥離可能に結合される。使用時に、片体 3 を袋体 1 から剥離させると、袋体 1 の片体 3 との結合部分が裂けて破裂開口が形成され、袋体 1 内に収容された拭取り用液体を破裂開口から流出させて拭取り層 2 に浸み込ませ、拭取りに用いる。

【選択図】 図 1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

クレンジング液、クリーナー液、水等の拭取り用液体が収容された袋体と、
前記拭取り用液体を浸み込ませることが可能な材質よりなると共に、中央部分に開孔が設けられた拭取り層と、
帯状をなした片体と、を有し、
前記袋体の一面に前記拭取り層が結合され、前記拭取り層の上面に前記片体が配置され
ると共に、前記開孔を通じて前記片体の一端が前記袋体に剥離可能に結合され、
前記片体を前記袋体から剥離させた場合、前記袋体の前記片体との結合部分が裂けて破裂
開口が形成され、
前記袋体内に収容された前記拭取り用液体が前記破裂開口から流出して前記拭取り層に浸
み込む、
ことを特徴とする拭取り層を備えた液体収容袋。

10

【請求項 2】

前記片体の一端に固定部が設けられ、前記開孔を通じて前記固定部が超音波融着または
その他加工方式で前記袋体に剥離可能に結合され、前記片体を前記袋体から剥離させた場
合、前記袋体の前記固定部との結合部分が裂けて前記破裂開口が形成される、
ことを特徴とする請求項 1 に記載の拭取り層を備えた液体収容袋。

【請求項 3】

前記片体の他端が、前記袋体及び前記拭取り層の側辺から突出されている、
ことを特徴とする請求項 1 に記載の拭取り層を備えた液体収容袋。

20

【請求項 4】

クレンジング液、クリーナー液、水等の拭取り用液体が収容された袋体と、
前記拭取り用液体を浸み込ませることが可能な材質よりなると共に、中央部分に開孔が設けられた拭取り層と、
帯状をなした片体と、
前記袋体の幅よりも一側縁の幅が大きく形成された底層と、を有し、
前記袋体の一面に前記拭取り層が結合され、前記拭取り層の上面に前記片体が配置され
ると共に、前記開孔を通じて前記片体の一端が前記袋体に剥離可能に結合され、
前記袋体の一面に対向した他面に前記底層が配置されると共に、前記底層は前記一側縁を
除く他の側縁が前記袋体に結合され、前記袋体と前記底層の前記一側縁との間に外方に開
放された手挿入口が形成され、
前記片体を前記袋体から剥離させた場合、前記袋体の前記片体との結合部分が裂けて破裂
開口が形成され、
前記袋体内に収容された前記拭取り用液体が前記破裂開口から流出して前記拭取り層に浸
み込む、
ことを特徴とする拭取り層を備えた液体収容袋。

30

【請求項 5】

前記片体の一端に固定部が設けられ、前記開孔を通じて前記固定部が超音波融着または
その他加工方式で前記袋体に剥離可能に結合され、前記片体を前記袋体から剥離させた場
合、前記袋体の前記固定部との結合部分が裂けて前記破裂開口が形成される、
ことを特徴とする請求項 4 に記載の拭取り層を備えた液体収容袋。

40

【請求項 6】

前記片体の他端が、前記袋体及び前記拭取り層の側辺から突出されている、
ことを特徴とする請求項 4 に記載の拭取り層を備えた液体収容袋。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、液体収容袋に関し、特に、液体の収容と液体の導出に便利な効果を兼ね備え、
拭取りに便利な拭取り層を備えた液体収容袋に関する。

50

【背景技術】

【0002】

外出の際に身体が汗をかいたり汚れたりしたとき、その処理方法としてはウェットティッシュで顔や身体の汗や汚れを拭取るのが一般的である。

【0003】

また、ガラスやショーケース、その他の物品を拭くとき、通常布を水に浸した後に絞ったり、クリーナーをモップに吹き付けたりして水分やクリーナーを含ませた布やモップで拭いている。

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

10

【0004】

上記のウェットティッシュは、保存が容易でないため、ウェットティッシュを一定期間携帯したり、開封後外界の温度の影響を受けたりすると、その水分を含んだティッシュが乾燥してしまい、ウェットティッシュの作用が失われてしまうことがよくある。

【0005】

また、布を水に浸した後に絞ったり、クリーナーを布やモップに吹き付ける方法は、先に水の容器やクリーナーを準備したり、拭き掃除の際に水源の場所との間を行ったり来たりする必要があり、非常に面倒で時間がかかる。特に、急に拭く必要があるときに水やクリーナーを取得するのが困難な場合、使用上の問題となる。

【0006】

20

そこで、本考案は、これに鑑みてなされたもので、その目的は、拭取り用液体が乾燥してしまうことがなく、各種拭き掃除や手入れ等の使用時に拭取り用液体を即時に拭取り層に浸み込ませることができて便利に使用することができる拭取り層を備えた液体収容袋を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0007】

請求項1に係る拭取り層を備えた液体収容袋は、上記課題を解決するために、クレンジング液、クリーナー液、水等の拭取り用液体が収容された袋体と、前記拭取り用液体を浸み込ませることが可能な材質よりなると共に、中央部分に開孔が設けられた拭取り層と、
帯状をなした片体と、を有し、
前記袋体の一面に前記拭取り層が結合され、前記拭取り層の上面に前記片体が配置されると共に、前記開孔を通じて前記片体の一端が前記袋体に剥離可能に結合され、
前記片体を前記袋体から剥離させた場合、前記袋体の前記片体との結合部分が裂けて破裂開口が形成され、
前記袋体内に収容された前記拭取り用液体が前記破裂開口から流出して前記拭取り層に浸み込む、ことを特徴とするものである。

30

【0008】

請求項2に係る拭取り層を備えた液体収容袋は、請求項1に係る拭取り層を備えた液体収容袋において、前記片体の一端に固定部が設けられ、前記開孔を通じて前記固定部が超音波融着またはその他加工方式で前記袋体に剥離可能に結合され、前記片体を前記袋体から剥離させた場合、前記袋体の前記固定部との結合部分が裂けて前記破裂開口が形成される、ことを特徴とするものである。

40

【0009】

請求項3に係る拭取り層を備えた液体収容袋は、請求項1に係る拭取り層を備えた液体収容袋において、前記片体の他端が、前記袋体及び前記拭取り層の側辺から突出されている、ことを特徴とするものである。

【0010】

請求項4に係る拭取り層を備えた液体収容袋は、
クレンジング液、クリーナー液、水等の拭取り用液体が収容された袋体と、

50

前記拭取り用液体を浸み込ませることが可能な材質よりなると共に、中央部分に開孔が設けられた拭取り層と、
帯状をなした片体と、
前記袋体の幅よりも一側縁の幅が大きく形成された底層と、を有し、
前記袋体の一面に前記拭取り層が結合され、前記拭取り層の上面に前記片体が配置され
ると共に、前記開孔を通じて前記片体の一端が前記袋体に剥離可能に結合され、
前記袋体の一面に対向した他面に前記底層が配置されると共に、前記底層は前記一側縁を
除く他の側縁が前記袋体に結合され、前記袋体と前記底層の前記一側縁との間に外方に開
放された手挿入口が形成され、
前記片体を前記袋体から剥離させた場合、前記袋体の前記片体との結合部分が裂けて破裂
開口が形成され、
前記袋体内に収容された前記拭取り用液体が前記破裂開口から流出して前記拭取り層に浸
み込む、ことを特徴とするものである。

10

【 0 0 1 1 】

請求項 5 に係る拭取り層を備えた液体収容袋は、請求項 4 に係る拭取り層を備えた液体
収容袋において、前記片体の一端に固定部が設けられ、前記開孔を通じて前記固定部が超
音波融着またはその他加工方式で前記袋体に剥離可能に結合され、前記片体を前記袋体か
ら剥離させた場合、前記袋体の前記固定部との結合部分が裂けて前記破裂開口が形成され
る、ことを特徴とするものである。

20

【 0 0 1 2 】

請求項 6 に係る拭取り層を備えた液体収容袋は、請求項 4 に係る拭取り層を備えた液体
収容袋において、前記片体の他端が、前記袋体及び前記拭取り層の側辺から突出されてい
る、ことを特徴とするものである。

【 考案の効果 】**【 0 0 1 3 】**

請求項 1 に係る拭取り層を備えた液体収容袋によれば、使用時に、片体を袋体から剥す
と、片体が剥されたことで袋体の片体との結合部分が裂けて破裂開口が形成され、そこか
ら袋体内に収納されていた拭取り用液体を流出させて拭取り層に浸み込ませることができ
るので、拭取り用液体が乾燥してしまうことがなく、各種拭き掃除や手入れ等の使用時に
拭取り用液体を即時に拭取り層に浸み込ませることができて便利に使用することができる
。よって、人体や顔の拭取りに使用することができ、ウェットティッシュ携帯の手間を省
くことができる。

30

【 0 0 1 4 】

請求項 2 に係る拭取り層を備えた液体収容袋によれば、請求項 1 に係る拭取り層を備え
た液体収容袋が奏する効果に加え、片体が、全体でなく、その一端の固定部で袋体に剥離
可能に結合されている構造であるので、袋体から片体を簡単に剥すことができる。

【 0 0 1 5 】

請求項 3 に係る拭取り層を備えた液体収容袋によれば、請求項 1 又は 2 に係る拭取り層
を備えた液体収容袋が奏する効果に加え、片体の他端が袋体及び拭取り層の側辺から突出
されているので、片体を剥す場合に、片体の他端を容易に摘むことができ、片体の他端を
引っ張ることで袋体から片体を楽に剥すことができる。

40

【 0 0 1 6 】

請求項 4 に係る拭取り層を備えた液体収容袋によれば、使用時に、手を底層と袋体の間
に形成された手挿入口から内方に挿入し、片体を袋体から剥すと、袋体は片体が剥されて
袋体に破裂開口が形成され、そこから拭取り用液体を流出させて拭取り層に浸み込ませる
ことができるので、例えば、ガラスやショーケース、その他物品の拭き掃除に使用すると
、非常に楽に拭き取りを行うことができる。

【 0 0 1 7 】

請求項 5 に係る拭取り層を備えた液体収容袋によれば、請求項 4 に係る拭取り層を備え
た液体収容袋が奏する効果に加え、片体が、全体でなく、その一端の固定部で袋体に剥離

50

可能に結合されている構造であるので、袋体から片体を簡単に剥すことができる。

【 0 0 1 8 】

請求項 6 に係る拭取り層を備えた液体収容袋によれば、請求項 4 又は 5 に係る拭取り層を備えた液体収容袋が奏する効果に加え、片体の他端が袋体及び拭取り層の側辺から突出されているので、片体を剥す場合に、片体の他端を容易に摘むことができ、片体の他端を引っ張ることで袋体から片体を楽に剥すことができる。

【 考案を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 9 】

以下、図面を参照して本考案の実施の形態を説明する。

[第 1 実施形態]

図 1 は本考案の第 1 実施形態に係る拭取り層を備えた液体収容袋を分解して示す斜視図である。また、図 2 は第 1 実施形態に係る拭取り層を備えた液体収容袋を示す斜視図であり、図 3 は第 1 実施形態に係る拭取り層を備えた液体収容袋の使用時を示す斜視図である。

10

【 0 0 2 0 】

図 1 に示すように、本考案の第 1 実施形態に係る拭取り層を備えた液体収容袋は、主として、例えば、クレンジング液、クリーナー液、水等の拭取り用液体が収容された袋体 1 と、拭取り用液体を浸み込ませることが可能な材質（例えば、不織布やその他同タイプの清掃や手入に用いる布材）よりなると共に、中央部分に開孔 2 1 が設けられた拭取り層 2 と、带状をなした片体 3 とを有している。

20

【 0 0 2 1 】

第 1 実施形態の袋体 1 は、矩形状をなすと共に辺縁全体が閉じられて密封された液体収容部 1 1 に形成され、液体収容部 1 1 の内部に拭取り用液体が充填されている。片体 3 は細長い形状を呈し、本実施形態において、片体 3 の一端には固定部 3 1（プラスチック等の材質）が設けられている。

【 0 0 2 2 】

図 1 乃至図 2 に示すように、袋体 1 の一面に拭取り層 2 が配置され、拭取り層 2 と袋体 1 とが、例えば、超音波融着またはその他加工方式で結合され、さらに、拭取り層 2 の上面に带状の片体 3 が配置されると共に、開孔 2 1 を通じて片体 3 の固定部 3 1 が袋体 1 に、例えば、超音波融着またはその他加工方式で剥離可能に袋体 1 に結合されて片体 3 が袋体 1 に固定されている。また、片体 3 の他端が袋体 1 及び拭取り層 2 の側辺から突出されている。

30

【 0 0 2 3 】

拭取り層を備えた液体収容袋の使用時には、図 3 に示すように、片体 3 を袋体 1 から剥すと、片体 3 が剥されたことで袋体 1 の片体 3 との結合部分が裂けて破裂開口 1 2 が形成されるので、破裂開口 1 2 から袋体 1 の液体収容部 1 1 内に収納されていた拭取り用液体を流出させて拭取り層 2 に浸み込ませることができる。これにより、拭取り層を備えた液体収容袋を手にとって、人体や顔の拭取りに用いることができ、ウェットティッシュ携帯の手間を省くことができる。

【 0 0 2 4 】

本考案の拭取り層を備えた液体収容袋は、非使用時には、拭取り用液体は袋体 1 に収容されているので、ウェットティッシュのように拭取り用液体が乾燥してしまうことがない。また、使用時に、片体 3 の他端が袋体 1 及び拭取り層 2 の側辺から突出されているので、片体 3 を剥す場合に、片体 3 の他端を容易に摘むことができ、片体 3 の他端を引っ張ることで袋体 1 から片体 3 を楽に剥すことができる。

40

【 0 0 2 5 】

[第 2 実施形態]

図 4 は本考案の第 2 実施形態に係る拭取り層を備えた液体収容袋を分解して示す斜視図である。また、図 5 は第 2 実施形態に係る拭取り層を備えた液体収容袋を示す斜視図であり、図 6 は第 2 実施形態に係る拭取り層を備えた液体収容袋の使用時を示す斜視図である。

50

。

【 0 0 2 6 】

第 2 実施形態に係る拭取り層を備えた液体収容袋は、第 1 実施形態の拭取り層を備えた液体収容袋が備える各構成と同等の構成を備えているため、共通する構成についての詳細な説明は省略するが、この構成に加え、袋体 1 の幅よりも一側縁の幅が大きく形成された底層 4（例えば、不織布または一般に掃除や手入に用いることができる材料）を有している点が異なる。

【 0 0 2 7 】

図 5 に示すように、袋体 1 の一面に拭取り層 2 が結合され、拭取り層 2 の上面に片体 3 が配置されると共に、開孔 2 1 を通じて片体 3 の一端に形成された固定部 3 1 が袋体 1 に、例えば、超音波融着またはその他加工方式で剥離可能に結合されている。

10

【 0 0 2 8 】

さらに、袋体 1 の一面に対向した他面に底層 4 が配置されると共に、底層 4 の一側縁を除く他の側縁が袋体 1 に結合され、袋体 1 と底層 4 の一側縁との間に外方に開放された手挿入口 4 1 が形成されている（図 5 参照）。また、片体 3 の他端が袋体 1 及び拭取り層 2 の側辺から突出されている。

【 0 0 2 9 】

以上のように構成された第 2 実施形態に係る拭取り層を備えた液体収容袋の使用について説明する。使用時に、手を底層 4 と袋体 1 の間に形成された手挿入口 4 1 から内方に挿入し、片体 3 を袋体 1 から剥すと、袋体 1 の片体 3 の固定部 3 1 との結合部分が裂けて袋体 1 に破裂開口 1 2 が形成され、そこから拭取り用液体を流出させて拭取り層 2 に浸み込ませることができるので（図 6 参照）、別途クリーナーや水を準備する必要がなく、例えば、ガラスやショーケース、その他物品の拭き掃除に使用すると、非常に楽に拭き取りを行うことができる。

20

【 0 0 3 0 】

また、使用時に、片体 3 の他端が袋体 1 及び拭取り層 2 の側辺から突出されているので、片体 3 を剥す場合に、片体 3 の他端を容易に摘むことができ、片体 3 の他端を引っ張ることで袋体 1 から片体 3 を楽に剥すことができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 3 1 】

30

【 図 1 】 図 1 は本考案の第 1 実施形態に係る拭取り層を備えた液体収容袋を分解して示す斜視図である。

【 図 2 】 図 2 は第 1 実施形態に係る拭取り層を備えた液体収容袋を示す斜視図である。

【 図 3 】 図 3 は第 1 実施形態に係る拭取り層を備えた液体収容袋の使用時を示す斜視図である。

【 図 4 】 本考案の第 2 実施形態に係る拭取り層を備えた液体収容袋を分解して示す斜視図である。

【 図 5 】 第 2 実施形態に係る拭取り層を備えた液体収容袋を示す斜視図である。

【 図 6 】 第 2 実施形態に係る拭取り層を備えた液体収容袋の使用時を示す斜視図である。

【 符号の説明 】

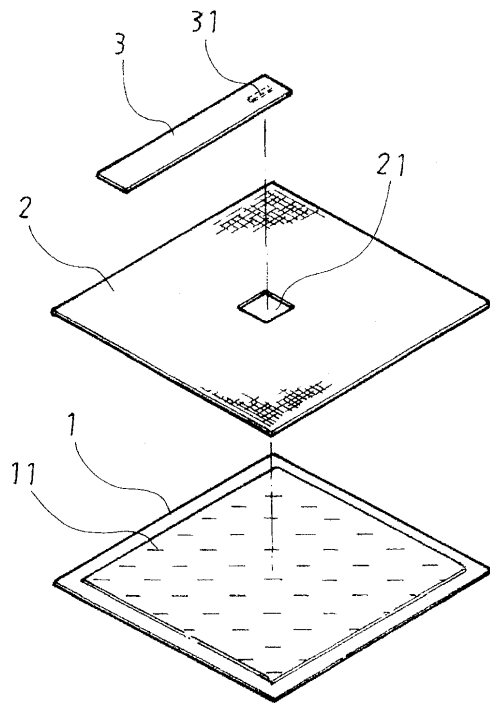
40

【 0 0 3 2 】

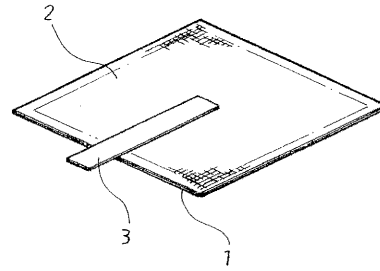
- 1 袋体
- 1 1 液体収容部
- 1 2 破裂開口
- 2 拭取り層
- 2 1 開孔
- 3 片体
- 3 1 固定部
- 4 底層
- 4 1 手挿入口

50

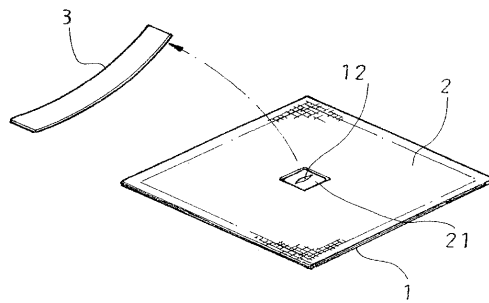
【図 1】



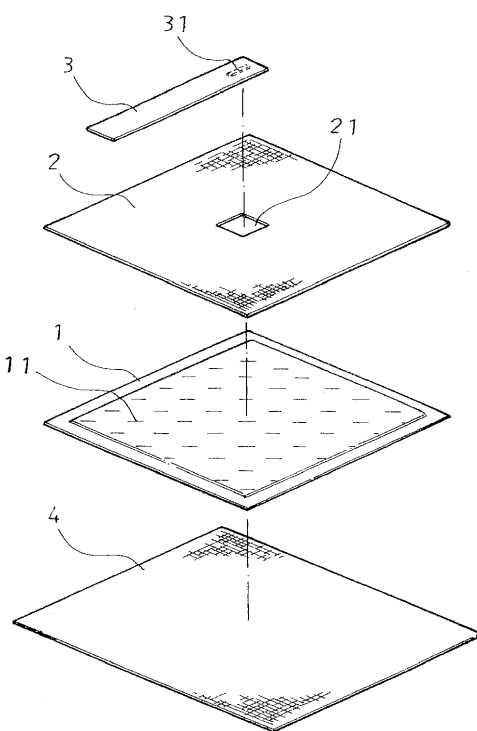
【図 2】



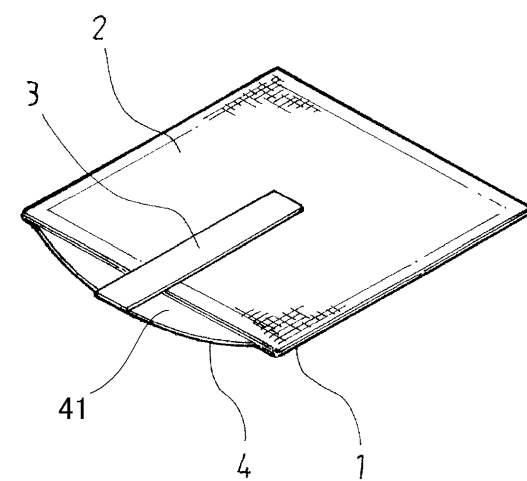
【図 3】



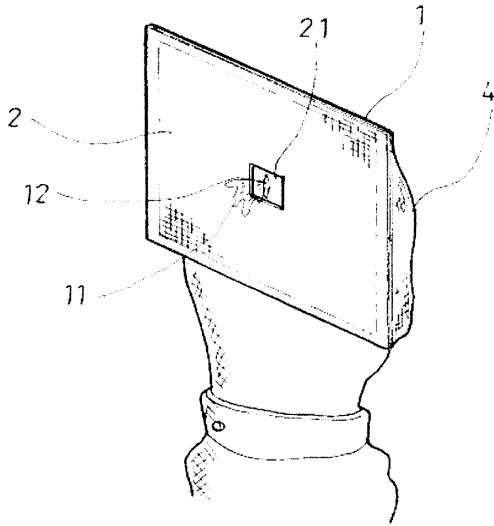
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

(74)代理人 100152124

弁理士 白石 光男

(72)考案者 林佳静

台湾台北市復興南路一段137號14樓之3